

雨の日はいつか晴れて

白谷瑞希

目次

はじめに	1
10年	2
ゆりかご	3
夢	4
桜	5
新しい気持ち	6
Let's begin!	8
エンジョイ	9
不思議	11
地球の反対側で	13
叫び	14
憂鬱	15
勝ち負け	16
どんな日	17
希望の光	18
角度	20
未来	21
雨の日はいつの日か晴れて	22
蝕むものから	23
怪物	24
長い道	25
ダンス	26

はじめに

本書は詩集です。執筆するにあたって、協力や応援をしてくださった皆様、拙書を読んで頂いた皆様、並びに編集社の方々に感謝を込めて。

10年

一日一善
三六五日続けたら
三六五善の積み重ね

十年続けたら
なんと三六五〇善！

ビックリするよ
善いことをしたいな

例えば
知らないお婆ちゃんに優しい言葉を
かけるとか

弱っている人に寄り添う温かさ

できることから始めよう
善は私たちの近くにあるのだから

ゆりかご

ゆりかごに乗っているような
温かくて気持ちが落ち着く
幸せになりたい

ゆりかごは
いつも守られていて
決して壊れなくて

ゆっくりゆっくり
揺れるゆりかご

あやすように
宥めるように

優しいお母さんとお父さんに
見守られているような
抱きしめられるような
そんなゆりかご

泣いている私をぎゅっとね

夢

夢を見たい
心躍るような
生きることが
楽しくなるような

人生は夢も学んでゆくもの
永遠に学びたい
永遠はきっとある

夢を見たい
倒れたときに
起き上がれるような
人生の指針を思い出すような

いつまでも
いつまでも

桜

桜を見て泣いた
あまりにも
懐かしい風景で

きっと過去に
同じ場所で同じように
涙を流したのだろう

荘厳と気高さと儂さを纏い
はらはらと散ってゆく
美しいその風景を

前にきっと見ている

新しい気持ち

新しい靴を買った
ちょっとワクワク
履くときも街を歩くときも
ほんのりワクワク

汚れないように
細心の注意を払って
毎日履く新しい靴

だけど いつかは
この靴もくたびれちゃって
サヨナラするときがくる

新しい気持ちが続くといい
なるべく長く
だから どんなものにも
持ち続けたい
新しいワクワクした気持ち

そのためには
工夫が必要だから
一生懸命考えたり
人と話したり

何を保つにも
持ち続けたい
学びたい気持ちと
新しいワクワクする高揚感

楽しみは
続かないからこそ
工夫を重ねたい

Let's begin!

トライしてみたいこと
たくさんあるなあ

例えば英語の勉強
ビジネスマナー

だけど
一番トライし続けたいのは
人生の人間らしい生き方の勉強

人間らしい学びなんて
なかなか無くて
友と語りながら
共有しながら
学べる喜び

今日も素晴らしい学びを
得られたことに感謝して

さあ また次の学びを続けたい
Let's begin!

エンジョイ

跳び箱が跳べたり
あるいは跳べなかったり

走り幅跳びがうまく出来なかったり
あるいはオリンピック選手並みに
上手だったり

そんなことと言ったら
叱られるかもしれないけど

そういったことで簡単に
自分の物差しで
優劣をつけちゃいけないと思うんだ

学校の勉強ができたり
あるいは苦手だったり

友達がたくさんいたり
何人かの友達で満足できる
タイプだったり

静かなおっとりした性格だったり
賑やかなやんちゃ者だったり

みんな
それぞれ違うこと
これはすごく大切なこと

だから
優劣や偏見や
勝ってるとか負けてるとか
比較しちゃうのやめないかな

つまらない物の見方はやめてみて

例えば

何かできないことがあっても

楽しめればそれでいい

できなくても

できても

楽しむことに意義がある

だって一度きりの人生だから

色んなことを

色んなやり方で

色んな見方で

頑張っ楽しんでみようよ

不思議

私って
一番分かりにくい存在
一番見えにくい存在

でも よく見てみると
凸凹してるけど
それは世界でひとつの凸凹で

ときに受け入れ難かったり
こんな自分嫌い！ となるけれど

ふにゃっとしているようで
案外しっかりとしていて
頼れるかと言ったら
そうでもない自分も居て

ああ そうだ
細胞がくるくると
育成を繰り返すように
私という存在も変わっていく

だけどね
私私だってことは
紛れもなくわかる

それは遠い記憶が
呼び覚ますから

だから人は
私は私だと認識できるんだ

不思議だらけ

私という存在
そして
そんな不思議が詰まった
すべての生き物よ

地球の反対側で

地球の反対側で
今日も繰り返される戦争

やめてと叫ぶ大衆の声が
聞こえないのか

今すぐ銃を捨て
握手をするんだ
銃に血液は通っていない
掌に無数に広がる血管

無駄な血を流すことをやめて
互いを貶めあうことをやめて

どこかに解決の方法が
あるとしたならば
どちらかが折れるしかない

今日も寝床がない人たちがいる
親を亡くした子どもたちがいる

身近なこうした事実
早く気づいて
どうすべきか考えて

あなたたちには
周りにたくさんの国や民衆がいる
その人たちの声を聴いて

唯一の被曝国より

叫び

みな叫びながら
生きている

苦しみに悶えて
喘ぎながら

この世は苦しみの世界

でも夜はいつかあけて
空には陽射しが差すだろう

そうしたら
また歩けだせるかな
そこの君も
そして私も

憂鬱

何もかもが憂鬱な日
人間だから
誰もそんな日があって

だけど
心の奥底にある
炎は揺らめいて
消えない

希望を灯すように

諦めない
何度も誓い
何度も倒れ
ここまでやっと
歩いてきた

それは きっと
無駄な努力じゃないと
私は思う

勝ち負け

弱肉強食のこの世界で
勝ってるとか 負けてるとか
競い合っているけれど

誰かに勝ちたい
そんな気持ちが
自分の中にあるのを知っている

だけど
一番は自分に勝ちたいと思いたい

欲や怒り
妬んだり
そういう醜い心に
打ち勝ちたいと

誰かを貶めるのではなく
誰かをそっと包みたい
苦しんでいる誰かを

勝ち負けじゃない世界に
行きたいなあ

どんな日

晴れている日はいいな
おひさま ポカポカ
おはなも ピカピカ

でも雨の日だって
みずたま キラキラ
おんぶが シドシド

ステキ ステキ

曇りの日はというと
くものま キラキラ
ときどき ズドーン

ああ どの日もいいな
毎日 ワクワク
どんなものが
どんな風に見えるのか
見つけるためかな

それとも
暮らしをキラキラにするためかな
毎日をキラキラに
なるべく
なるべくね

希望の光

絶望の淵から
這い上がる

暗闇の中を
長い間

誰も恨みやしない
誰も呪いやしない

だってこれは
与えられたものだから

きっとまた
暗闇がきても

怯えずに
構えずに

誰のせいでもなく
なるべくして
起こった事態を
静かに受け止め
受け入れたい

希望の願い

絶望と希望は
相反するようで
とても近い関係で

絶望があるから希望が輝き
希望があるから絶望も沁みる

だから
どんな逆境に立たされても
願いの光は差している
本当は知らないうちに

希望の願いの光が

角度

角度を変えれば
見方が変わる
意識的に
角度を変えてみたい

ドーナツとカップの輪っかは
同じものである
誰か 偉い人が言った

そうだね
例えば

過去も未来も一瞬だね

不思議な世界
不思議な見方

それが案外
クリエイティブに繋がるのかも

角度を変えて見ることは
生きていくためには
どうしても必要なんだ

だってこのどん底は
見方を換えれば
新たなスタートだから

未来

明日どうなるかわからない
でも いい日にしたい

未来どうなるかわからない
でも いい未来を待っている

未来は自分の手で作り出すもの

諦めたくない
投げ出したくない

いいことをしたい
未来いいことが起こるように

自分の手で未来を作りだすのなら

一歩 一歩
休みながらも
頑張れるはず

頑張れるはずなんだ

雨の日はいつの日か晴れて

雨は降り続けると思っていた
私の心の中に

止まない雨が
ずっと

でも見てみて
希望の芽が
少しずつ
顔を出していることを

止まない雨はなく
光がいつか
そこに差す

私は静かに
それを待っている

雨が止んだら
虹が出るだろう

雨はやがて晴れるのだから

蝕むものから

蝕むものから
心を守りたい

私は無力で
何もできないけれど

自分の心を守りたい
無数の恐ろしいものから

怪物

心の中に
または記憶の中に
眠っている怪物

スイッチが入ると
火を噴くように
暴れ出す

または泣き出して
手に負えない

この怪物を
どうしたらコントロールできるのか
それが難題だ

怪物は自身なのだから
癒してあげなければ

長い道

孤独な長い長い道
人はそれぞれ歩んできた
これからも続くだろう
長い長い道

それでも
歩こうと思うのは
この道にのぞみがあるからで

孤独だからこそ
人の温もりを求めて
支え合いながら
歩いていく

苦しいこともあるだろう
哀しみに胸押し潰れるときも

人生は短く
速く速く過ぎる

長いように見えて
短い道ならば
大事に 大事に
進もう

ダンス

みんな仮面を被って
生きている

演じているのは
自分自身
それとも？

今日も仮面を被って
何かをひたすら
演じて

踊ろうよ
ダンス ダンス

仮面舞踏会の始まり
澄んだ青空の下で

手を繋いで
または手を振り払って

一緒に踊ろうよ
ダンス ダンス ダンス

雨はいつの日か晴れて

著 白谷瑞希

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
